



日邦産業株式会社

(証券コード：9913)

2019年3月期 第2四半期 決算説明会

2018年 11月 30日

代表取締役社長
岩佐恭知



I 会社概要

P2～P6

II 2019年3月期 第2四半期 決算ハイライト

P7～P13

III 2019年3月期 通期業績予想

P14～P15

IV 長期ビジョンと中期経営計画の進捗

P16～P21

※ 参考資料：沿革



I 会社概要



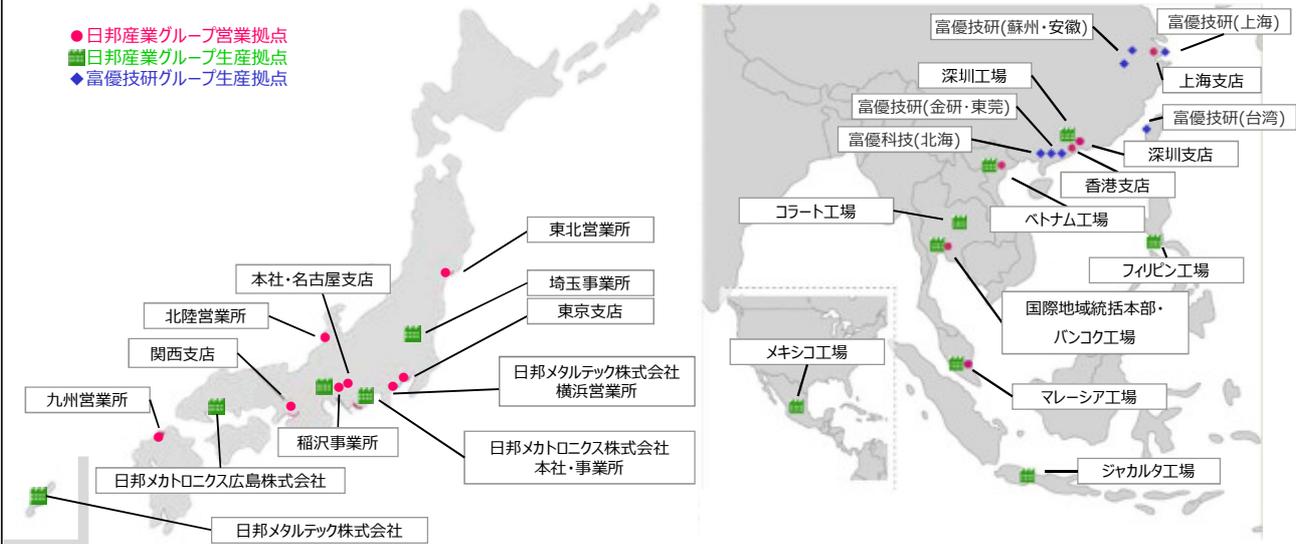
会社概要

2018年9月30日現在

商号	日邦産業株式会社（英字名：NIPPO LTD.）
本社	愛知県名古屋市中区錦一丁目10番1号
設立	1952年 3月 6日
資本金	31億3,775万4千円
代表者	代表取締役社長 岩佐 恭知
従業員数	（連結） 3,665名 （単体） 322名

グローバル化を進めるお客様のビジネスパートナー

- 日邦産業グループ営業拠点
- 日邦産業グループ生産拠点
- ◆ 富優技研グループ生産拠点



- 営業拠点8カ所、生産拠点5カ所

- アセアン・中華圏・メキシコに営業拠点6カ所、生産拠点8カ所
- 中華圏(富優技研：業務提携先含む)に生産拠点7カ所

経営理念

新しい価値の創造を通じて、会社の繁栄と社員の幸福増進の一致を計り、社会の恩恵に報いることを使命とします

経営方針

三方一両得の精神に基づき、異色ある価値創造企業として、世界をリードするお客さまのものづくりを支え続け、社員を強みの源泉とした地域に根差したグローバル企業を目指します

行動規範

～当社における活動（行動）の軸を示したもの～

「顧客第一」「基本重視」「フェア」「チャレンジ」「スピード」「コミュニケーション」

製造

商事

モビリティ



パワートレイン系機構部品
電子制御系関連部品
・ 樹脂成形品、インサート部品
・ コイル部品/組付け
車載光学関連部品



エレクトロニクス



電子部品関連 高性能材料
・ 薄膜プロセス材料
・ パッケージ材料
配線板関連材料
高性能加工部品、治工具、機器
RFID関連製品、ICカード、ICタグ等



医療・精密機器

Disposable医療製品
高性能医療関連器具
プリンター関連部品
デジタルイメージング関連部品



住宅設備

住宅配管関連部品
給湯器関連部品
介護ベットコントロールユニット
燃料電池関連部材



II 2019年3月期

第2四半期 決算ハイライト

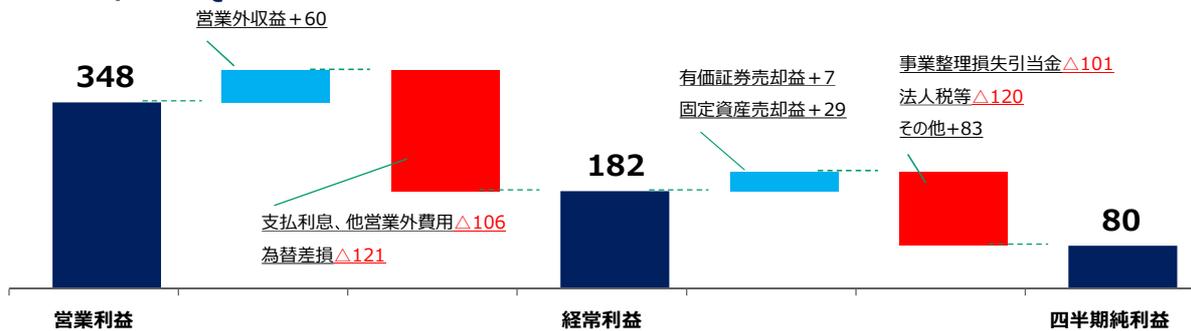
19/3期 2Q 連結業績



(単位：百万円)

科目	18/3期 2Q	19/3期 2Q	前年同期比	増減額
売上高	20,977	22,078	105%	+1,101
営業利益	314	348	111%	+33
経常利益	175	182	104%	+6
四半期純利益	348	80	23%	△267

<19/3期2Q 要素別 利益増減>



19/3期 2Q セグメント別業績



(前年同期比)

モビリティ	売上高	8,280百万円	13.3% Up	↑
	セグメント利益	10百万円	93.0% Down	↓
<ul style="list-style-type: none"> ■ バンコク、ベトナム、インドネシア等の海外主力工場の受注が好調に推移 ■ 国内稲沢工場と、メキシコ新工場への先行投資の影響が継続 				
エレクトロニクス	売上高	7,254百万円	0.5% Down	↓
	セグメント利益	351百万円	2.3% Up	↑
<ul style="list-style-type: none"> ■ スマートフォン関連の需要が調整局面に入り受注が減少 ■ ロボット・工作機器向け配線板材料と、車載パワーデバイス関連部材の受注が好調に推移 				
医療・精密機器	売上高	3,990百万円	13.4% Up	↑
	セグメント利益	176百万円	47.1% Up	↑
<ul style="list-style-type: none"> ■ プリンター関連部品、および医療機器関連のディスプレイ器具の受注がともに増加したことで好調に推移 				
住宅設備	売上高	1,655百万円	11.4% Down	↓
	セグメント利益	126百万円	7.1% Up	↑
<ul style="list-style-type: none"> ■ 住宅用給水ユニット関連部品の受注が減少 ■ 燃料電池向け金型等の受注が増加 				

※ セグメント利益・・・全社費用配賦前利益

メキシコ工場

- メキシコ工場（サン・ルイス・ポトシ州）内に増床中の自動車光学関連部品の専用工場は、19年3月の竣工に向けて、計画通りに工事を進めております。来春から量産稼働を始め、来期第2四半期から量産数を拡大する見込みであります。



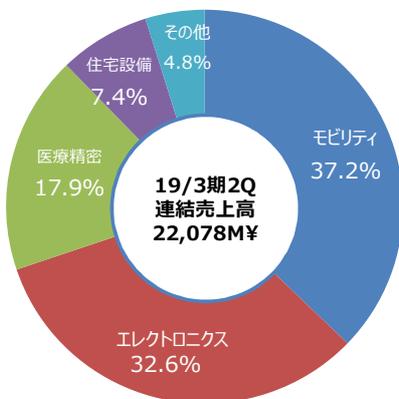
稲沢工場

- 国内稲沢工場（愛知県）内に、自動車コイル部品の専用ラインの増強を進めており、来春をもって設備投資に一定の区切りをつけ、来期第2四半期から量産数を拡大する見込みであります。

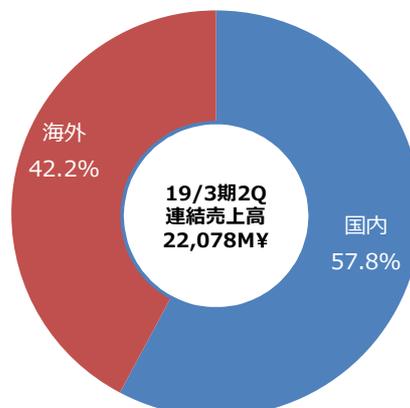


19/3期 2Q 連結売上高構成

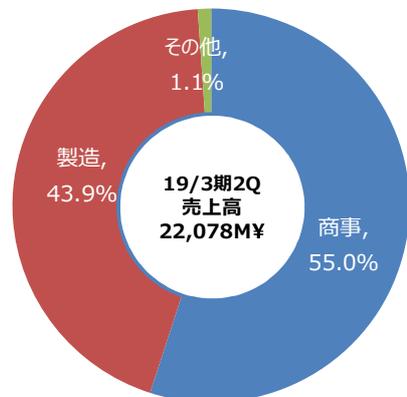
< セグメント比率 >



< 国内外比率 >



< 事業比率 >



※ 各比率は、調整額控除前の連結売上高をもって計算しております。

19/3期 2Q 連結貸借対照表



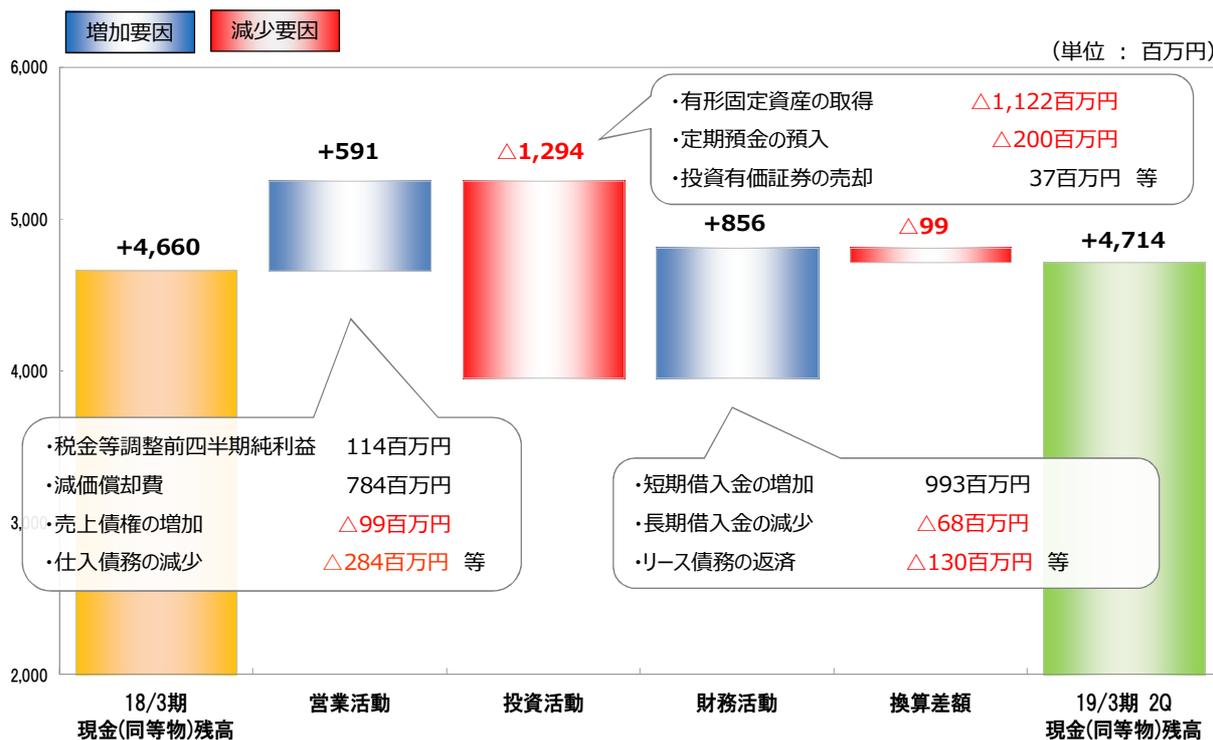
(単位：百万円)

決算期		18/3期	19/3期 2Q	増減額	決算期		18/3期	19/3期 2Q	増減額
資産の部	流動資産	15,471	15,548	+77	負債の部	流動負債	12,390	13,424	+1,034
	現預金	4,666	4,721	+54		支払手形及び買掛金	8,067	7,710	△356
	受取手形及び売掛金	7,744	7,750	+5		短期借入金等	2,339	3,481	+1,141
	たな卸資産	2,486	2,401	△85		その他	1,982	2,232	+250
	その他	574	675	+101		固定負債	5,999	6,494	+494
	固定資産	14,380	15,269	+889		長期借入金	3,610	3,541	△68
	有形固定資産	11,125	11,992	+866		その他	2,389	2,953	+50
	無形固定資産	99	91	△7		負債合計	18,389	19,918	+1,529
	投資その他の資産	3,155	3,185	+30		資本金	3,137	3,137	-
	資産合計	29,851	30,817	+966		資本剰余金、利益剰余金及び自己株式	6,546	6,597	+51
				その他の包括利益累計額	1,251	734	△517		
				非支配株主持分	526	428	△98		
				純資産合計	11,462	10,898	△563		
				負債・純資産合計	29,851	30,817	+966		

19/3期 2Q 連結キャッシュ・フロー計算書



(単位：百万円)

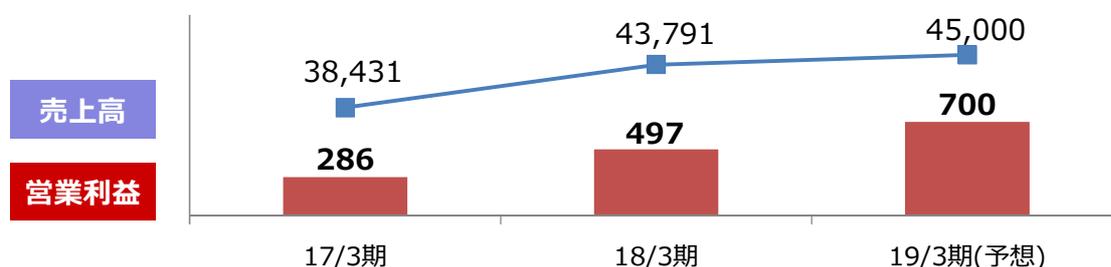


Ⅲ 2019年3月期 通期業績予想

19/3期 通期業績予想

(単位：百万円)

科目	19/3期 2Q	19/3期 通期予想	19/3期 進捗率	通期業績予想と配当予想を 据え置いた理由
売上高	22,078	45,000	49.1%	1. 売上高と営業利益は、ほぼ計画通り推移しており、 通期もこのトレンドを維持できると考えております。 2. 為替対策を講じたことから、2Qの為替差損の金額 (△121)から大幅な増減は生じないと考えております。 3. 中国シンセン工場の閉鎖にかかる「事業整理損失引 当金」△101を繰入れております。 ✓ 2.3.は期初の計画に織り込み済みのため、本年5月15 日付の通期業績予想を据え置いております。
営業利益	348	700	49.7%	
経常利益	182	450	40.4%	
当期純利益	80	300	26.7%	
年間配当金	-	5円	-	



IV 長期ビジョンと中期経営計画の進捗

長期ビジョン（全体像）



単年ではなく中期の各累計単位で持続的な成長を計る

フェーズ	事業の選択と捨象、 リバランスを行い 足元を固める期間	財務基盤を安定させつつ、 新たなビジネスモデルの構築に、挑戦する期間	新たなビジネスモデルをもつて、 業界内における存在感を向上させる期間
	先行投資・種まき	収穫	新たな武器・ビジネスモデルの確立
姿	全事業・全拠点が 収益貢献している (赤字事業・拠点が なくなっている)	先行投資した事業が 収益に大きく貢献している ・NIFコイル事業 ・FNALレンズ事業 ・医療機器事業	持続的成長を牽引する 収益性の高い事業が 各領域で確立されている

長期ビジョン (事業の方向性)



モノづくりの高い技術を武器に、取引先から求められる事業に (下請からの脱却)

有力パートナー企業とのアライアンスを武器に、当社が介在しなければ成立しない事業に (窓口代理店商社からの脱却)

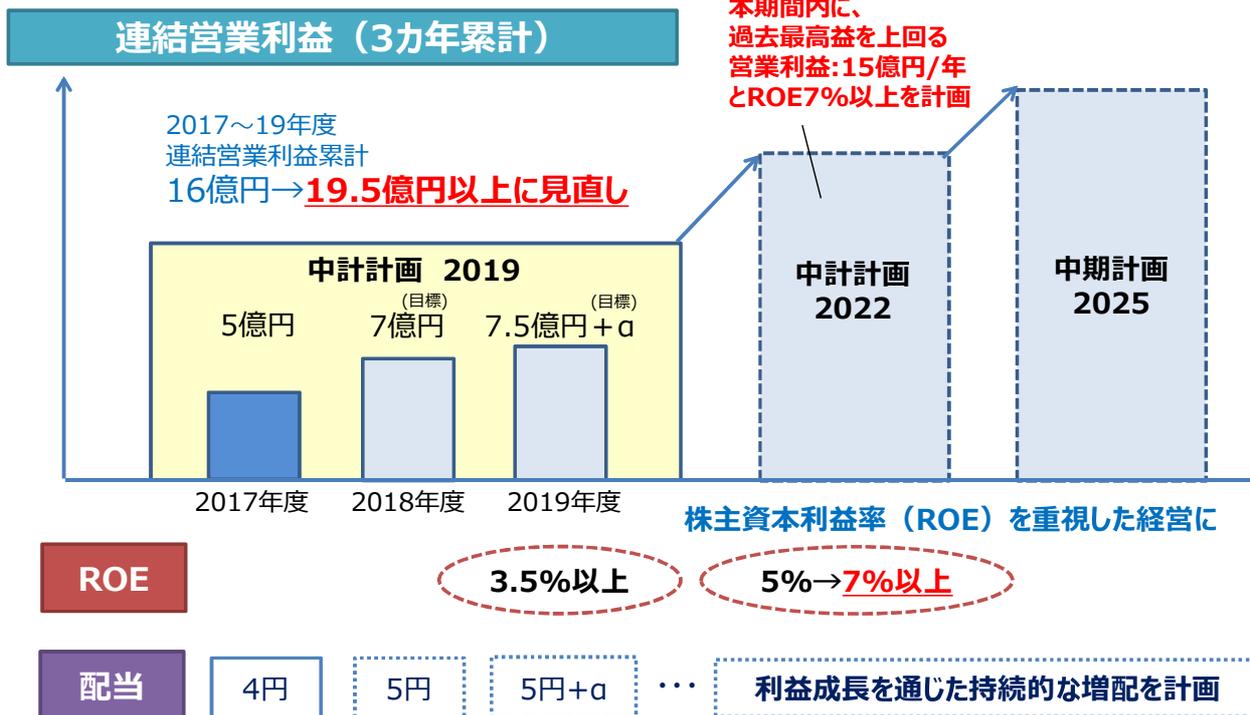
医療機器部品のOEMメーカーとして、業界から高い評価を受けている事業に

中期経営計画 2019

1. 成形品をコアにした、自動車重要保安部品の量産技術を確立する
2. ディスポーザブル製品を中心に精密医療機器の受託生産を拡大する
3. 電子部品を主軸に様々な事業領域で次世代商材を探索提供する



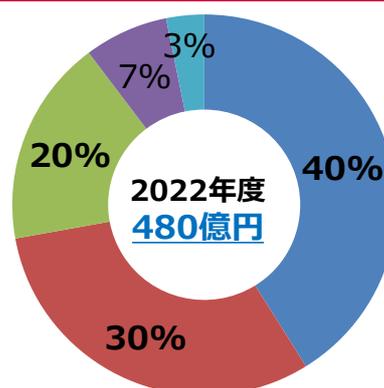
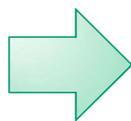
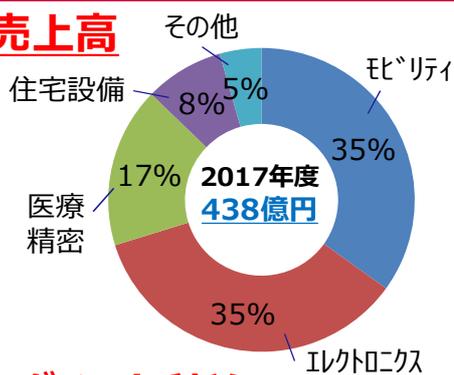
長期ビジョン (経営指標)



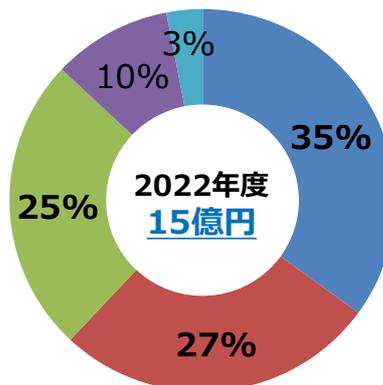
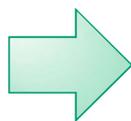
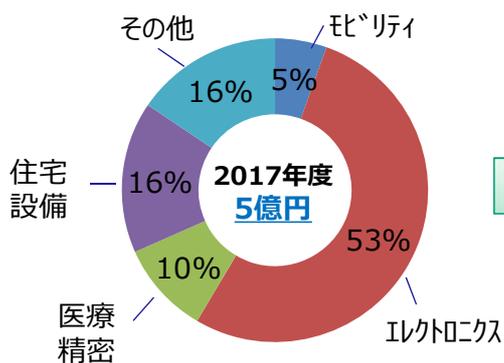
長期ビジョン（セグメント別推移）



連結売上高



連結セグメント利益



1+1=3 More than the sum

ご清聴 誠にありがとうございました。

年月	項目
1952.03.	東邦カーボン製造所の販売部門を母体として日邦産業株式会社を設立する
1968.07.	愛知県一宮市に樹脂成形工場を開設する
1987.11.	台湾(台北)に支店を開設・タイ(バンコク・ミンブリー)に生産子会社を設立する
1991.11.	店頭登録銘柄(現 東京証券取引所 ジャスダック市場)として、日本証券業協会に登録される
1993.02.	マレーシア(ネグリセンピラン)に生産子会社を設立する
1995.06.	タイ(コラート)に生産子会社を設立する
1996.02.	香港に営業子会社を設立する
2002.01.	中国(深圳)に新工場を設立する
2002.10.	ベトナム(ハノイ)に生産子会社を設立する
2003.11.	上海に営業子会社を設立する
2004.12.	株式会社ジャスダック証券取引所(現 東京証券取引所 ジャスダック市場)に株式を上場する
2006.03.	愛知県稲沢市に樹脂成形工場を建設する
2010.09.	富優技研股份有限公司と資本・業務提携する
2011.03.	大阪証券取引所ジャスダック市場(現 東京証券取引所 ジャスダック市場)の貸借銘柄に指定される
2011.12.	富優技研股份有限公司を持分法適用会社とする
2012.06.	インドネシア(プカン)に生産子会社を設立する
2013.01.	埼玉県羽生市に営業・生産拠点として、埼玉事業所を開設する
2014.01.	アジアにおける中樞拠点として、タイ(チェンサイ)に自動車部品工場を建設(ミンブリー閉鎖)する
2014.03.	富優技研股份有限公司を持分法適用会社から除外する
2014.04.	メキシコ(サン・ルイス・ポトシ)に生産子会社を設立する
2016.01.	プラスチック成形品の製造・販売を推進するため、広島市に日邦メカトロニクス広島株式会社を設立する
2016.06.	取締役会の監督機能とコーポレートガバナンスを強化するため、監査等委員会設置会社に移行する
2018.07.	愛知県名古屋市内に本社を移転するとともに名古屋支店を開設する

日邦産業株式会社
経営企画部 竹中 啓倫

電話 : 052-218-3161
E-Mail : ir@nip.co.jp
HPアドレス : <http://www.nip.co.jp/>

将来見直しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における弊社の業績が、現在の弊社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、弊社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、弊社はいかなる場合においてもその責任を負いません。
なお、本業績見直しにおける為替レートは、1米ドル=113円、1タイバーツ=3.2円で計算しています。

Q&A ① 【2018.11.30説明会の質疑応答】

Q1) 先行投資の効果（利益）は、来期から期待できるのか？

A1) 来期の第2四半期から量産数を拡大していく計画ですので、第3四半期には利益貢献を形にできると考えております。

Q2) 今後、商事事業から製造事業にウエイトをシフトしていくのか？

A2) 今後も、商事／製造の両機能を保持し、業界における特異性を保持し続けたいと考えております。

Q3) 将来計画(2022年度)においても、モビリティセグメントの利益率が低いのは何故か？

A3) 現時点において、具体的な計画はありませんが、新たな拠点開設の要求や、新しい技術・部品製造にかかる先行投資の可能性もあることから、保守的に利益計画を策定しました。

Q4) 為替差損の影響と今後の見通しは？

A4) 為替対策により、今期は現在値でほぼ固定化でき、また来期以降についても、プラスマイナス1億円の範囲内でその影響額を抑制できると考えております。

Q5) 中期経営計画2022における設備投資の見通しは？

A5) 中期経営計画2022年は、財務基盤の安定化を計画していますので、減価償却費の範囲内での設備投資を考えております。

Q6) 配当原資となる、親会社の利益剰余金の見通しは？

A6) 約5億円を見込んでおります。

Q&A ② 【2018.11.30説明会の質疑応答】

Q7) 新規顧客の獲得は進むのか？

A7) 新規開拓は、テーマを明確にして進めておりますが、優先すべきは既存顧客の深耕と考えております。

Q8) 特別損失が増加する予定はあるのか？

A8) 中国深圳工場の閉鎖計画により事業整理損失引当金を計上しておりますが、現時点で確定しているものではありません。

Q9) 深圳工場の閉鎖に伴う収益影響は？

A9) 現行の8割強にあたる生産量を、協力メーカーと当社グループ会社に移管しますので、連結業績に及ぼす影響は少ないと考えております。

Q10) 事業を取り巻く環境変化へのリスク対策は？

A10) モビリティに関しては、動力源の変化と北中米への拠点展開を図ってきたことと、今後も需要の拡大が見込まれる医療機器部品に取り組んできたことが挙げられます。

Q11) ロボット工作機関係の先行きが不透明だが、今後の見通しは？

A11) 現時点において、連結業績に占める割合は小さいものの、注視しているところであります。